

DX推進計画



—— 今日を築き明日を拓く ——
株式会社 水倉組

DX推進への取り組み

代表取締役ごあいさつ

平素より水倉組をご支援いただき、誠にありがとうございます。
弊社は創業以来110年を超える歴史の中で、地域の皆様から信頼を頂き、社会インフラの整備を通じて地域の発展に貢献してまいりました。

現在、建設業界は人口減少や人材不足、技術革新など、さまざまな課題に直面しています。私たちはこの変化を前向きに捉え、「変革と進化に挑む」姿勢を大切にしながら、未来を見据えた取り組みを進めています。

2024年にはDX宣言書を策定し、業務の可視化、クラウド基盤の整備、BIM/CIMの導入、社員のデジタルスキル向上に向けた育成プログラムの展開など、段階的かつ実効性のある施策を推進しています。これらの取り組みは、単なる技術導入ではなく、「人」を中心に据えた働き方改革の一環です。

社員の声を経営に活かし、全社一丸となって成長できる組織づくりを目指すとともに、ITツール導入のための予算を毎年確保し、継続的な技術革新を支える体制を整えています。勉強会や社内周知を通じて意識改革を促進し、社員が段階的にスキルを習得できる環境づくりにも力を入れています。

今後も、建設業の未来を担う企業として、地域社会に貢献し続けるとともに、次世代に誇れる技術と働き方を築いてまいります。

引き続き、皆様の温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



代表取締役
水倉 直人

経営理念

地域の産業や人々の暮らしを支える使命に真摯に向き合い、ICT活用や産学連携での新技術開発に挑戦します。協力と礼節を重んじ、「変革と進化に挑む」精神で持続可能な社会の実現に貢献します。

経営ビジョン

弊社では、建設業界におけるデジタル技術の進化が、業務効率化・品質向上・人材不足への対応といった面で大きな機会をもたらすと認識しています。一方で、技術の急速な進展により、従来の業務手法や人材スキルが形骸化するリスクも存在すると捉えています。こうした変化に対応するため、ITツールの導入や現場支援の拡大を通じて、持続可能な業務体制の構築を進めています。

技術革新と人材育成を通じて、「変革と進化に挑む」精神で持続可能な社会を実現することを経営理念として掲げています。DX推進をその中核に位置づけ、ICT活用や産学連携での新技術開発に挑戦することで、働き方改革と持続可能な社会の実現を目指しています。

社員一人ひとりが変化を前向きに捉え、自ら学び成長する風土づくりを進めています。

DXビジョン

- **働き方改革と職場改善** デジタル技術を活用し、業務効率化と情報共有を推進。社員全員が働きやすい環境を整えます。
- **産学連携による技術革新** 大学や業界内での協力を通じて、新技術の開発に挑戦します。
- **人材育成と学ぶ環境** 社員自ら学び、成長できる仕組みを整え、デジタルスキルの底上げを図ります。
- **地域とともに歩むDX推進** 地域の産業や自治体、教育機関と連携し、デジタル技術を活用した課題解決や地域課題の解決に挑戦します。

ビジネスモデル

弊社では、建設ディレクター・DX推進部が中心となって社内外との連携を図り、現場課題の解決を起点とした改善活動を推進しています。これにより、社員が自ら課題を発見し、改善に取り組む風土が醸成され、経営ビジョンの実現に向けた具体的な行動が組織全体に浸透しています。

経営ビジョン「変革と進化に挑む」精神のもと、持続可能な社会の実現に向けて、現場支援の強化と業務の標準化を軸としたビジネスモデルを展開しています。



□ 現場起点の課題解決

現場で発生する課題を起点に、3D施工データ作成ソフトやドローンなどを活用して、柔軟に業務改善を図っています。現場の声を吸い上げ、ICTを活用した業務改革を継続的に実施することで、業務の効率化と品質向上を実現しています。

現場で取得される写真や点群データなどの現場データは、スマートフォンやドローン等を用いて収集され、クラウド機能を通じて社内で共有・活用されています。現場の映像や工事写真をクラウドで共有することで、遠隔地からでもリアルタイムに状況把握が可能となり、スムーズで手戻りのない施工管理が可能となっています。また、点群データは土量計算や図面作成に活用され、業務の効率化に貢献しています。

さらに、収集・蓄積された現場データをもとに、施工手順や作業時間、出来形の傾向を分析し、課題や改善点を可視化しています。その分析結果をもとに、次の類似工事における施工計画の見直しや人員配置の最適化に活用しています。これにより、担当者の経験に依存しない業務改善を進め、品質の安定化と業務効率化を実現しています。

□ 人材と組織の進化を支える

社員一人ひとりが変化を前向きに捉え、自ら学び成長できるよう、社内勉強会やマニュアル整備を通じた人材育成を推進しています。また、属人化を防ぐための業務標準化や情報共有の仕組みづくりにも取り組んでいます。

□ 地域と未来をつなぐ

官民連携による新技術の開発や、地域とともに歩む社会づくりを通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。ホームページやSNSを通じた情報発信にも力を入れ、社外との協力・連携を促進しています。

これらの戦略は、建設ディレクター・DX推進部が中心となって段階的に展開しており、毎年のIT予算を確保しながら、継続的な改善と成長を図っています。なお、これらの取り組みは「株式会社水倉組 DX宣言書」に基づいて推進されています。

DX戦略・施策

フェーズ1

現状分析と計画策定

- ・業務プロセスやシステムの可視化と課題抽出
- ・DX推進計画の策定
- ・社内説明会の実施
- ・DX推進チームの設置
- ・外部知見の活用とノウハウ蓄積

フェーズ2

短期施策の実施

- ・クラウド環境で社内データ管理基盤を構築
(過去の工事データの共有)
- ・レガシー脱却を図り、持続可能なシステムに移行
- ・部門特性に応じたITツールの導入
- ・DX推進チームが各部署の定着化をサポート

フェーズ3

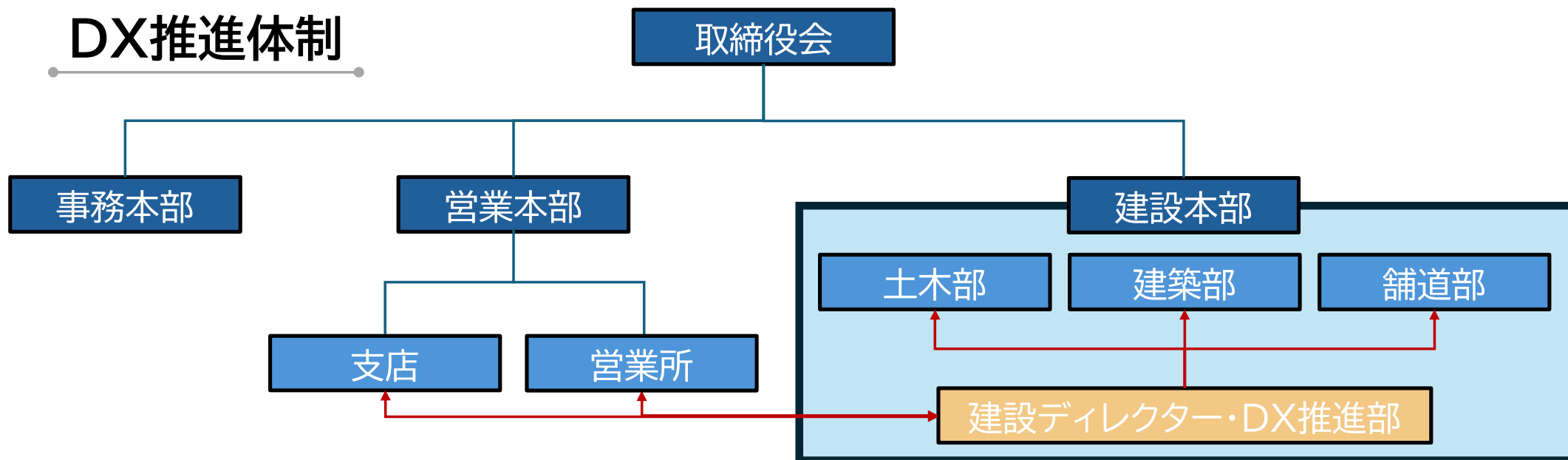
中長期施策の実行

- ・社員向けデジタルリテラシー教育の定期的な実施
- ・働き方改革と会社の成長を加速する組織体制の再構築
- ・デジタル技術を活用した産学連携による継続的な地域課題解決

弊社では、社内データを一元管理するためのクラウド環境を構築し、各部門の課題に応じてBIM/CIMなどのITツールを導入することで、情報共有と業務効率化を推進しています。現場で取得した写真・映像・測量データはクラウド上で共有・活用され、進捗管理や品質管理の効率化に貢献しています。さらに、ドローンによる空撮データや3D測量結果を活用することで、図面作成や施工計画の精度向上にも取り組んでいます。これらのデータは進捗遅延や品質上の課題を早期に把握するための分析資料として活用され、施工計画の修正や判断材料の迅速化につながっています。

また、ITツールの効果的な利活用を支援するため、社員向けの研修プログラムを実施し、現場での活用定着を図っています。導入から定着までのプロセスはDX推進チームが中心となってサポートし、現場のニーズに即したツール選定と運用支援を行っています。

DX推進体制



弊社は、取締役会の方針のもと、事務本部・営業本部・建設本部が連携しながらDX推進の実行体制を構築しています。

DX推進は「建設ディレクター・DX推進部」を中心にスモールスタートで始めています。土木部・建築部・舗道部と密接に連携し、現場の課題の吸い上げやソフトウェア導入の計画・実施を担っています。さらに、支店や営業所とも連携し、現場とバックオフィスの橋渡し役としてDX推進に取り組んでいます。

事務本部や営業本部は、書式の見直しや業務内容の検討を進めるとともに、講習会やセミナー、勉強会を通じて社員の意識改革を促進しています。段階的にデジタル技術や業務標準化に関するスキルを習得できるよう支援しています。

また、官民連携による技術開発や地域との協働を推進するため、地元自治体や大学、ICTベンダーとの連携体制も整備しています。これにより、現場起点の改善活動が組織全体に浸透し、持続可能な社会づくりに貢献する体制が確立されています。

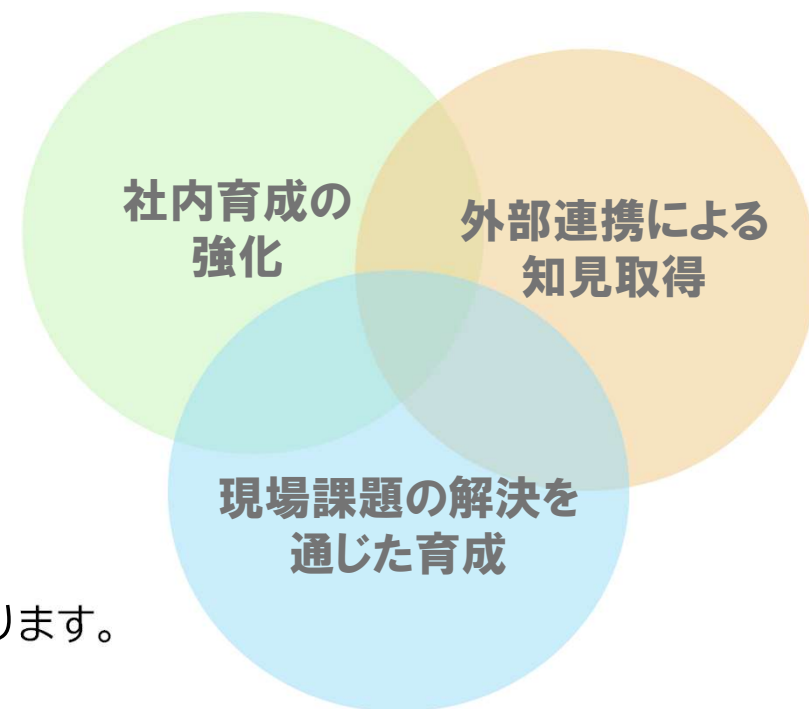
人材育成・確保

DX推進を、人材育成を基盤とした取り組みと位置づけ、社員一人ひとりの成長を支援しています。

業務標準化やITツール導入に合わせ、社内勉強会や研修を継続的に実施し、現場に即した教育で実務に直結するスキルを定着しています。ICTスキルやクラウド活用といった内容は実践的な研修で習得しています。属人化防止のため、業務標準化と情報共有の仕組みづくりも推進しています。

建設ディレクター・DX推進部が中心となり、社内周知や意識改革を促進しています。外部研修機関や専門人材との連携により、最新技術を取り入れ、育成体制を強化しています。さらに、働き方改革の一環として職場環境改善にも注力し、有給休暇取得率向上や業務改善提案制度を導入しています。社員が安心して長く働ける環境を整えています。

今後とも技術と人材の両面から未来の建設業を支える企業として、地域社会に貢献し続けるとともに、次世代に誇れる働き方を築いてまいります。



環境整備

- クラウドストレージとデータ連携環境の整備
現場データ(写真・点群など)をKSデータバンクやKUMIKIで共有し、リアルタイムな状況把握と施工管理の効率化を実現。
- Microsoft 365の導入・活用
TeamsやSharePointなどを活用し、現場とバックオフィスの情報共有を円滑化。今後は現場ニーズに応じた活用をさらに推進。
- IT予算の確保と継続的な投資
毎年予算を確保し、システム更新や新技術導入を計画的に実施。レガシーシステムの刷新も視野に。
- DX推進チームによる導入支援と定着化
ツールの選定から導入・定着までをDX推進チームがサポートし、現場課題に即した改善活動と連動。

達成指標

- データ活用による業務判断の高度化
現場データ(写真・点群データ等)の分析結果をもとに、施工方法や段取りの見直しを行った工事件数については建設ディレクター・DX推進部が、整理・蓄積を行い、達成状況を把握する
- データ活用による業務改善の実施
現場データ分析を起点とした業務改善事例を社内で共有・横展開(年間2件以上)
- 社員による業務改善提案：30件(2027年9月)
- 関係部署間の合意形成・判断時間の短縮(現場や関係部署へのヒアリング等により定性的に確認)
- ITツール導入数と定着状況：毎年予算を確保し、継続的に導入・定着
- DX推進フェーズに沿った施策の実施状況(フェーズ2から3への移行)

情報セキュリティ基本方針



セキュリティ対策自己宣言

弊社は2025年8月にセキュリティアクション二つ星を宣言しました。

株式会社水倉組(以下、当社)は、情報資産を事故・災害・犯罪などの脅威から守り、お客様ならびに社会の信頼に応えるべく、以下の方針に基づき全社で情報セキュリティに取り組めます。

1. 経営者の責任

当社は、経営者主導で組織的かつ継続的に情報セキュリティの改善・向上に努めます。

2. 社内体制の整備

当社は情報セキュリティの維持及び改善のために組織を設置し、情報セキュリティ対策を社内の正式な規則として定めます。

3.従業員の取組み

当社の従業員は、情報セキュリティのために必要とされる知識・技術を習得し、情報セキュリティへの取組みを確かなものにします。

4.法令及び契約上の要求事項の順守

当社は、情報セキュリティに関わる法令、規則、規範、契約上の義務を遵守するとともにお客様の期待に応えます。

5.違反及び事故への対応

当社は、情報セキュリティに関わる法令違反、契約違反及び事故が発生した場合には適切に対処し、再発防止に努めます。

制定日:2025年8月29日
株式会社 水倉組
代表取締役 水倉直人